

石川・戸水大西遺跡

の莊園であつたという伝承もある。

戸水大西遺跡は一九九

- | 2
調査期間 | 1
所在地 |
|-----------------|--|
| 二
一九九七年二月～二月 | 石川県金沢市戸水町・大友町・御供田町
一
一九九六年(平8)七月～一〇月 |

7	6	5	4
調査担当者	出越茂和・前田雪恵・谷口明伸		
遺跡の種類	集落もしくは莊園関連施設跡		
遺跡の年代	九世紀～一世紀		
遺跡及び木簡出土遺構の概要			

遺跡は金沢市の北方、浅野川と大野川に挟まれた海に近い低平な

沖積地にある。以前は一面

の水田であつたが、現在は

区画整理により、市街地へ

間車 転換しつつある地域である

付近は戸水C遺跡（官衙）

近岡町本
中央新
関連施設。漆紙文書出土）や

西念·南新保貴跡、欽田貴

工場試験所など同時代の貴所が集中する。

(金沢)

の莊園であつたという伝承もある。

戸水大西遺跡は一九九一年からの調査でほぼ今域を発掘し、一九九九年に報告書を刊行する予定である。多くの堀立柱跡や土器や木簡などの文字資料を埋蔵しているのはSD三〇と名付けた溝である。幅四m深さ〇・五~一mを測り遺跡の南端を東西に流れており、所々に直交する細い支流が派生する。全体で二三〇mにわたって検出しているが、第三次調査では三四m分、第四次調査では五m分を検出した。SD三〇からは、

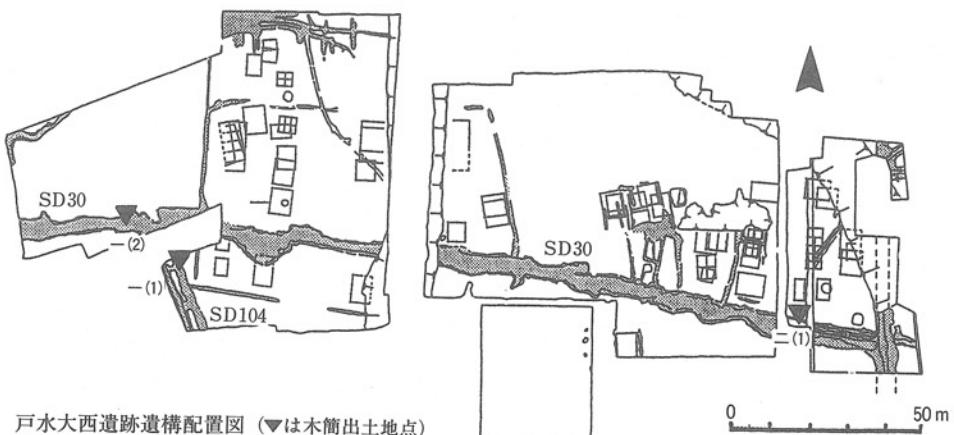
・大友町・御供田町
（）七月~一〇月
月~一二月

・谷口明伸
・連施設跡

川に挟まれた海に近い低平な沖積地にある。以前は一面の水田であったが、現在は区画整理により、市街地へ転換しつつある地域である。

付近は戸水C遺跡（官衙関連施設。漆紙文書出土）や西念・南新保遺跡、畠田遺跡など同時代の遺跡が集中する。大友町には大伴家持

ているのはSD_{III}と名付けた溝である。幅4m深さ〇・五一mを測り遺跡の南端を東西に流れおり、所々に直交する細い支流が派生する。全体で二三〇mにわたって検出しているが、第三次調査では三四m分、第四次調査では五m分を検出した。SD_{III}からは、



戸水大西遺跡遺構配置図（▼は木簡出土土地点）

れがさわかな土器、木器とともに、墨書き土器、簀串・形代などの祭祀具が出土している（本誌第一六号）。今回は、第三次調査で一点（一）（2）、第四次調査で一点（二）（1）の木簡が、いずれも溝の下層から出土した。

一方（1）は、SD-10四とした幅1mを測るが浅い溝の、底につき刺された状態で出土した。SD-10四是方向からみれば前述したSD-10の支流である可能性もあるが、接点があるとすれば調査区外にあたるので断言はできない。

8 木簡の釁文・内容

一 第三次調査

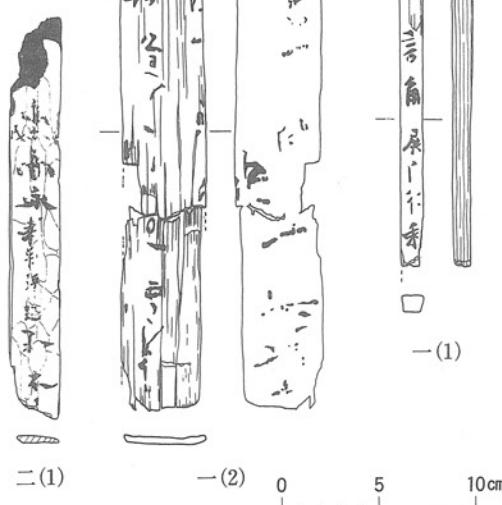
SD-10四

〔謹解殿門御稻カ〕
 (162)×(12)×10 081

SD-10四



（1）は右半分と下部を割りとった、柱状をしている。上部に刃を入れ



れて折つたらしい痕が見られる。墨痕は明瞭である。
 (2)は下部、左右両側面を欠損している。表裏に二行ずつ墨書きしたと思われるが、板の表面が剥離しているためほとんど判読できない。

二 第四次調査

SD-10

〔永カ〕
 (213)×27×3 081

(1)は上下を欠損し、上部は炭化している。墨痕が薄く、判読できない。
 (前田雪恵)